

## 第2次おい町未来創生戦略 事業評価シート

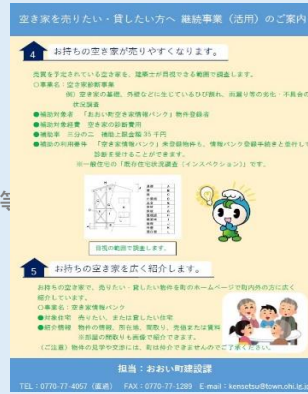
整理番号	4-①	課 名	建設課
------	-----	-----	-----

戦略分類	4. 活力生活		
取組の方向	移住・定住の促進に向けたおいの住まい支援		
戦略事業名	①おいの空き家は良い空き家！どんどん使って！事業		
予算事業名	空き家等対策事業		
令和4年度実績額	1,466,901円	令和5年度予算額(6月補正後)	4,782,000円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業の概要（実績）	<p>空き家に関する対策を総合的、計画的に実施するため、空き家対策の推進に関する条例、同規則および空き家等対策協議会規則が令和2年4月1日に施行された。条例・空き家等対策計画に基づき、空き家の支援事業（診断・解体・活用）を創設し運用を図った。</p> <p>啓発事業としては、条例施行と適切な管理に関する啓発リーフレットの配布、空き家支援事業のリーフレットの作成、配布を実施するとともに、空き家無料相談会を3月に開催した。</p> <p>空き家情報バンクを運用し、登録物件を町ホームページで紹介した。</p> <p>【R2空き家の支援事業助成実績】 4件（診断1、解体2、活用1）</p>	<p>空き家の支援事業（診断・解体・活用）の運用並びに制度の啓発、空き家無料相談会の開催、空き家情報バンクの運用等、空き家に関する対策を実施した。</p> <p>【R3空き家の支援事業助成実績】 5件（解体5）</p>	<p>空き家の支援事業（診断・解体・活用）の運用並びに制度の啓発、空き家無料相談会の開催、空き家情報バンクの運用等、空き家に関する対策を継続して実施していく。</p> <p>【R4空き家の支援事業助成実績】 2件（解体2）</p>
	令和5年度(予定)	令和6年度	
	<p>空き家の支援事業（診断・解体・活用）の運用並びに制度の啓発、空き家無料相談会の開催、フォローアップ調査による空き家台帳更新、空き家情報バンクの運用等、空き家に関する対策を継続して実施していく。</p>		



（画像等）



### 評 価 (Check)

成果を測る指標 (KPI・数値目標)	助成件数		⇒	現 状		KPI達成率 (%)
	基準値 (平成30年度)	—		令和4年度末	累計11件	
	目標値 (令和6年度末)	累計15件				

#### ① 数値目標達成状況 おおむね達成

達成状況の要因分析	空き家支援事業のリーフレットについては町内全戸に配布を行い、その後、事業に関する問合せは寄せられたが、事業を利用し、空き家の除却等を実施する方は少数であった。解体費用等、様々な要因が考えられる。
目標を見直す場合の考え方	—

## ② 事業成果

空き家の支援事業(診断・解体・活用)の運用を図った。また、空き家等支援事業を今後も活用し、老朽空家等の除却等、空き家対策を進めていく。  
空き家情報バンクは所有者と購入者のマッチングの入り口として引き続き運用を行っていく。

## ③ これまでの取組で得られたノウハウや昨年度までの事業評価を反映した今後の方針

ノウハウの内容、内部評価・外部評価の反映、目標達成に向けた今後の方針など

平成30年度に実施した空家実態調査の空き家の内Dランク(倒壊の可能性があるなど、現況のままの利用は困難な物件)の空き家は、町内で17件登録されているが、支援事業(解体)の利用も含め、7件が除却された  
解体費用等、様々な要因が考えられるが、空き家の問題は所有者や管理者のみならず、近隣住民や地域社会全体に影響を与える課題であることを認識してもらう必要があり、引き続き啓発事業を継続していくとともに、特に老朽度の高い空き家所有者等に対する意識の高揚を図っていく。

## ④ 内部評価結果(①～③を踏まえた評価)

- ・KPIの達成に向けて順調だが、特にDランクの空き家の除却や適切な管理について、引き続き所有者や管理者に粘り強く理解を求めていく必要があり、空き家の問題は近隣住民や地域社会全体にまで影響を与えることについて、所有者等に認識を持たせることが重要
- ・住まいとして十分利用できる空き家については、移住や定住の促進等に有効活用していくことが重要

## 外部評価の結果

意見等なし

## 第2次おい町未来創生戦略 事業評価シート

整理番号	4-②	課 名	建設課
------	-----	-----	-----

戦略分類	4. 活力生活		
取組の方向	移住・定住の促進に向けたおいの住まい支援		
戦略事業名	②住宅取得等支援事業		
予算事業名	おいの住まい支援事業		
令和4年度実績額	14,350,000円	令和5年度予算額(6月補正後)	14,950,000円

事業の概要(実績)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	県産材を利用した新築・リフォーム、U・Iターン者が行う新築・リフォーム、分譲地購入者が行う新築、多世帯で同居・近居するために新築・リフォーム等を行う経費の一部を助成する。	県産材を利用した新築・リフォーム、移住者、新婚、子育て世代が行う新築、空き家購入、リフォーム、分譲地購入者が行う新築、多世帯で同居・近居するために新築・リフォーム等を行う経費の一部を助成する。	県産材を利用した新築・リフォーム、移住者、新婚、子育て世代が行う新築、空き家購入、リフォーム、分譲地購入者が行う新築、多世帯で同居・近居するために新築・リフォーム等を行う経費の一部を助成する。
	令和5年度(予定)	令和6年度	
	県産材を利用した新築・リフォーム、移住者、新婚、子育て世代が行う新築、空き家購入、リフォーム、分譲地購入者が行う新築、多世帯で同居・近居するために新築・リフォーム等を行う経費の一部を助成する。		
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">おいの住まい支援事業制度概要</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分譲地購入者住まい支援事業</li> <li>2. 多世帯同居リフォーム支援事業</li> <li>3. 多世帯同居住宅取得支援事業</li> <li>4. 多世帯同居住宅取得支援事業</li> <li>5. おいの県産材住まい支援事業(新築・リフォーム)</li> <li>6. おいの移住者・新婚・子育て世代への住まい支援事業</li> </ol> </div> </div> <p style="text-align: center;">(画像等貼付)</p>		

### 評 価 (Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	助成件数		現 状		KPI達成率(%)
	基準値 (平成30年度)	累計65件	⇒	令和4年度末	累計156件
目標値 (令和6年度末)	累計150件				

#### ① 数値目標達成状況 達成

達成状況の要因分析	住宅取得は、申請者の費用負担(建築費用や購入費用)が大きく、支援制度についての問い合わせが多数あり、また、近年は民間事業者が町内数カ所分で譲を行っていること等により、順調に推移し、目標を達成した。
目標を見直す場合の考え方	—

② 事業成果

住宅取得等に係る費用の一部を助成することにより、本町への移住を促進し、定住人口の確保を図ることができた。

③ これまでの取組で得られたノウハウや昨年度までの事業評価を反映した今後の方針

ノウハウの内容、内部評価・外部評価の反映、目標達成に向けた今後の方針など

町ホームページ上で、全メニューを一覧にしたページを作成し、使える制度が一目で確認できるように公開しており、コロナ禍の影響もあり、町のHP閲覧からの問い合わせが多数を占めている。R3年度以降、民間事業者が町内数カ所で分譲を行っているので、それらの団体や町土地開発公社と連携し、事業の活用を進めていく。

④ 内部評価結果(①～③を踏まえた評価)

- ・制度を一覧化したHPを作成するなどして周知を図った結果、KPIを達成
- ・今後も効果的な周知を行ったり、関係団体と連携するなどして制度利用を促し、移住者や定住者をさらに増やしていくことが重要

外部評価の結果

本事業をはじめ、おおい町は子どもや若者に対して手厚い事業を多く実施しているという印象

## 第2次おい町未来創生戦略 事業評価シート

整理番号	4-③	課 名	建設課
------	-----	-----	-----

戦略分類	4. 活力生活		
取組の方向	移住・定住の促進に向けたおい町の住まい支援		
戦略事業名	③宅地造成事業		
予算事業名	住宅用地造成事業		
令和4年度実績額	0円	令和5年度予算額(6月補正後)	0円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業の概要(実績)	<<町事業>> 佐分利地区において、新たに宅地分譲地の整備を行い、定住化の促進を図ることとした。 【事業内容】 ・宅地分譲地造成工事の実施 4区画 A=1,483.89㎡(道路等含む) ※次年度へ繰越工事等実施  <<おい町土地開発公社事業>> おおい町土地開発公社において、各分譲地の販売促進を実施。 ○南浦宅地(住宅地) ○三重宅地(住宅地) [その他分譲地] ・成和宅地(商業地) ・小倉畑宅地(住宅地) ・三重【星見台】宅地(住宅地)  ※R2年度分譲実績4区画売却(三重) 買戻し4件	<<町事業>> R2年度からの繰越工事の完成 (宅地分譲地造成工事)  <<おい町土地開発公社事業>> おおい町土地開発公社において、各分譲地の販売促進を実施。 ○南浦宅地(住宅地) ○三重宅地(住宅地) [その他分譲地] ・成和宅地(商業地) ・小倉畑宅地(住宅地) ・三重【星見台】宅地(住宅地) ・石山宅地(住宅地)  ※R3年度分譲実績4区画売却 (三重、南浦、星見台、石山 各1区画)	<<町事業>> 予算事業 無  <<おい町土地開発公社事業>> おおい町土地開発公社において、各分譲地の販売促進を実施。 ○南浦宅地(住宅地) ○三重宅地(住宅地) [その他分譲地] ・成和宅地(商業地) ・小倉畑宅地(住宅地) ・三重【星見台】宅地(住宅地) ・石山宅地(住宅地)  ※R4年度分譲実績6区画売却 (南浦2区画、成和1区画、石山3区画)  ※チラシB4版15,000部製作 ※新聞折込(高浜町～若狭町(上中)エリア) 13,825部
		令和5年度(予定)	令和6年度

継続して各分譲地の販売促進を実施する。

おい町は定住・移住を応援します！  
**おい町宅地分譲募集中**  
 名田庄三重宅地分譲地7区画 NO.10 補助金100万円  
 南浦宅地分譲地10区画 NO.10 補助金100万円  
 石山地区 NO.10 補助金100万円  
 名田庄小倉畑地区 NO.10 補助金100万円  
 商業分譲地 成和 NO.10 補助金100万円

**おい町分譲地募集中**  
 名田庄小倉畑地区 NO.10 補助金100万円  
 商業分譲地 成和 NO.10 補助金100万円

### 評 価 (Check)

成果を測る指標 (KPI・数値目標)	売却数		⇒	現 状		KPI達成率 (%)
	基準値 (平成30年度)	累計17件		令和4年度末	累計27件	
	目標値 (令和6年度末)	累計31件				

#### ① 数値目標達成状況 おおむね達成

達成状況の要因分析	名田庄三重宅地分譲地7区画、南浦宅地分譲地10区画の売れ残りがある。原因として立地条件等がよくないことが考えられるが、継続してホームページやチラシ折込等で分譲地の広報を行うとともに適切な維持管理を図り、全区画売却を目指す。
目標を見直す場合の考え方	-

② 事業成果

移住者やUターン者等若い世帯を中心に販売できたことから一定の成果があったと考えられ、移住定住の促進と町有地の有効活用が図られた。

③ これまでの取組で得られたノウハウや昨年度までの事業評価を反映した今後の方針

ノウハウの内容、内部評価・外部評価の反映、目標達成に向けた今後の方針など

今後も様々なPR方法を検討し実施していき、また「おい町定住者支援制度」を活用するなど、移住定住希望者、住宅所得希望者に対して積極的にPRを行っていく。

④ 内部評価結果(①～③を踏まえた評価)

- ・R4年度は6件が売れ、KPIの達成に向けて前進している。
- ・売れ残りがある分譲地について、全区画完売を目指し、定住者支援制度による優遇措置を受けることができるU・Iターン希望者などをターゲットに積極的なPRを行っていくことが重要

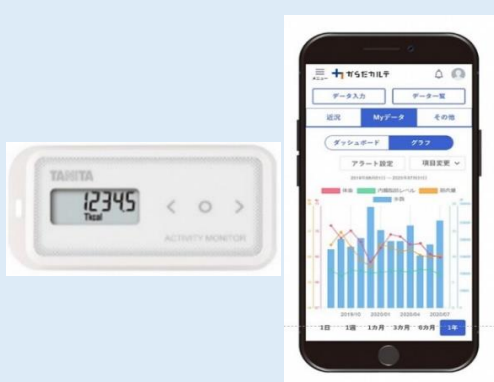


外部評価の結果

意見等なし

## 第2次おい町未来創生戦略 事業評価シート

整理番号	4-④	課名	すこやか健康課
------	-----	----	---------

戦略分類	4. 活力生活		
取組の方向	積極的な活動展開による「若さ」いきいき生活の実現		
戦略事業名	④健康づくり事業		
予算事業名	健康プログラム・(国保)健康づくり推進事業		
令和4年度実績額	5,013,158円	令和5年度予算額(6月補正後)	5,369,000円

事業の概要(実績)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	10月より2次生(50名)が加わり、1次生(令和元年10月～)と合わせて100名が事業に取り組んだ。 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、動画を活用したセミナーを行った。参加者は、各自の携帯やパソコンで運動や食生活に関する動画を閲覧した。 また、バーチャルウォーキングラリーやからだ測定会を開催した。	令和3年9月末で、1次生が2年間のプログラムを修了となるため、修了セミナーを開催し、2年間の取り組みの振り返りや、表彰、取り組み継続への意識付けを目的としたセミナーを開催した。 また、新たに50名の3次生を募集し、10月から事業を開始した。 バーチャルウォーキングラリーや、サポートセミナーの開催に加え、新たに自分の取り組み状況が把握でき、取組に応じたアドバイスが記載された「アドバイスシート」を毎月送付した。さらに、町民向けのセミナーを開催した。	引き続き、プログラム参加者に対し、取組に応じたポイントの付与、アドバイスシートの送付、バーチャルウォーキングラリー、セミナーの開催等で、運動習慣の継続と定着化を支援する。 参加者以外の広く一般町民へも運動習慣の習得、継続への意識付けを行うため、町民向けのセミナー、運動教室(ストレッチ教室)を開催した。
	令和5年度(予定)	令和6年度	
	令和5年9月末で現参加者50名が卒業し、第1期が終了となるため、これまでの取り組みで得られた成果やノウハウを活かし、新たにスマートフォンアプリを活用した取り組みをスタートさせる。毎日の歩数、健診受診、健康教室、スポーツイベントへの参加等でポイントを付与する。インセンティブの提供により運動習慣の定着化を図る。誰もが気軽に取り組めるよう、年齢制限や定員は設けない。また、町内4箇所にデジタルサイネージを設置し、健康づくりやスポーツイベントに関する情報発信を行う。		(画像等貼付)
   <p style="text-align: right;">アドバイスシート</p>			

評価(Check)							
成果を測る指標(KPI・数値目標)	健康寿命		⇒	現 状		KPI達成率(%)	
	基準値 (平成30年度)	男性79.15歳、女性84.66歳		令和4年度末	男性:81.00歳 女性:84.02歳		男性 102.3% 女性 98.7%
	目標値 (令和6年度末)	男性79.20歳、女性85.10歳					

① 数値目標達成状況	おおむね達成
達成状況の要因分析	標準化医療費において、本町は県平均に比べ筋骨格系の疾患の比率が男女ともに高くなっている。こうした筋骨格系疾患の予防には、健康なうちに日常的に適度な運動を継続することが重要であり、介護費や医療費の削減や健康寿命の延伸に大いに有効であると考えられる。 ウォーキングは、年齢性別を問わず運動習慣がない方でも気軽に取り組み、筋力低下予防、生活習慣病予防、脳の活性化等メリットが大きいため、今後も引き続きウォーキングによる健康づくりの支援を行うとともに、事業参加者に限らず広く町民への情報発信を行いたい。
目標を見直す場合の考え方	-

## ② 事業成果

参加者の活動量計の携帯率は80%以上、データ送信率は90%以上と非常に高く、本事業のベースとなるセルフモニタリングが定着した。歩数は、男女とも全国平均を上回り、また、活動量が減少しやすい冬場(12月～2月)においても、国推奨歩数(※)達成者割合は50%以上を維持していたことから、活動量の増加を意識して取り組んでいたことがうかがえる。

(※国推奨歩数【20～64歳】男性:9000歩、女性:8500歩【65歳以上】男性:7000歩、女性:6000歩)

アンケート調査により、健診結果では、血圧、コレステロール、中性脂肪では、約10～20%の方が「改善した」と回答。また、体調の変化については、約20%の方が肩こり、腰痛、膝等の関節痛が「改善した」と回答した。事業に対する評価は、「大変満足」「やや満足」の回答の合計で90.9%と非常に高い満足度であった。

## ③ これまでの取組で得られたノウハウや昨年度までの事業評価を反映した今後の方針

ノウハウの内容、内部評価・外部評価の反映、目標達成に向けた今後の方針など

バーチャルウォーキングラリーでは、歩数に応じて画面上の景色が変化し、またランキングが表示されることにより、自分や、仲間の取り組み状況が確認でき、コロナ禍で参加者同士が顔を合わす機会が少ない状況であってもウォーキング継続のモチベーションの維持に大変有効であった。

新たに活用予定のアプリには、町内、年代別、性別のランキング表示や、歩数によって画面上でキャラクターが育つなどの機能がある。多くの方に楽しみながら継続して取り組んでいただけるよう、周知に力を入れたい。

## ④ 内部評価結果(①～③を踏まえた評価)

・KPIの達成に向けて順調。アンケート結果から本事業参加者の満足度が高いことが分かり、町民の運動習慣定着につながっていると評価できる。

・令和5年度から新たにスタートするスマートフォンアプリを活用した取り組みについて、年齢制限や定員は設けないこととしており、多くの方に利用していただくため積極的にPRしていくことが重要

## 外部評価の結果

意見等なし



## 第2次おい町未来創生戦略 事業評価シート

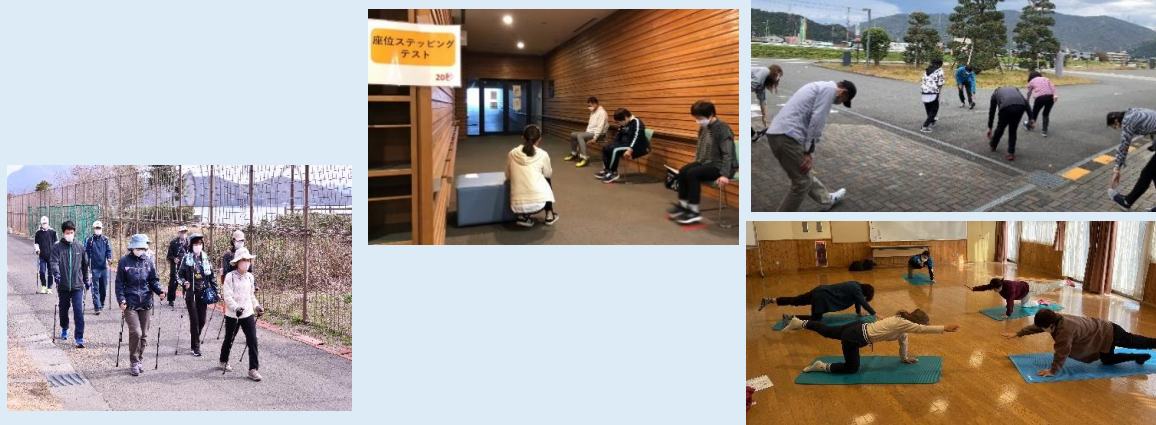
整理番号	4-④	課名	すこやか健康課
------	-----	----	---------

戦略分類	4. 活力生活
取組の方向	積極的な活動展開による「若さ」いきいき生活の実現
戦略事業名	④健康づくり事業
予算事業名	健康増進事業・(国保)保健福祉支援センター運営事業

令和4年度実績額	208,380円	令和5年度予算額(6月補正後)	100,000円
----------	----------	-----------------	----------

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業の概要(実績)	<p>「ノルディックウォーキング教室」は、年3回の実施を予定していたが、うち2回はコロナの影響により中止した。3月に実施した教室では、講師より歩き方の指導を受けたあと、「健康ロードいきいきコース」を通る約3kmを歩いた。</p> <p>また、代替事業として新たに開催した「足の健康教室」では、足に関する測定(足裏バランス、足指力)と、正しいウォーキングフォームを学ぶ教室を開催した。</p> <p>自宅でできるストレッチや筋トレを学ぶ教室「OOI(おい)★100日チャレンジ」は、3回シリーズで大飯、名田庄で開催した。</p>	<p>引き続き、運動習慣の定着を目的として、「ノルディックウォーキング教室」「足の健康教室」「OOI★100日チャレンジ」を実施した。</p> <p>また、新たにノルディックウォーキングのポールの貸し出しを随時行い、教室以外でも気軽にノルディックウォーキングが体験・実践できる機会を設けた。</p>	<p>「足の健康教室」を、新たに自身の体の状態(柔軟性、バランス、筋肉量等)を評価し、専門職より維持・改善のためのアドバイスが受けられる「からだ測定会」、また、効果的なウォーキングの正しいフォームを身に付けるための「ウォーキング教室」として内容を充実させ開催した。</p> <p>「OOI★100日チャレンジ」は、自身の体力のレベルに応じた運動やきめ細やかな指導が受けられるよう、初級者・中級者向けの教室から選択できるようにした。</p>

	令和5年度(予定)	令和6年度
事業の概要(実績)	<p>引き続き、運動習慣の定着を目的として、「からだ測定会」「ウォーキング教室」「ノルディックウォーキング教室」「OOI★100日チャレンジ」を実施する。</p> <p>(実施予定回数)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・からだ測定会 年1回</li> <li>・ウォーキング教室 年1回</li> <li>・ノルディックウォーキング教室 年1回</li> <li>・OOI★100日チャレンジ 年4回(大飯2回+名田庄2回)</li> </ul>	



### 評 価 (Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	健康寿命			現 状		KPI達成率(%)
	基準値(平成30年度)	男性79.15歳、女性84.66歳		令和4年度末	男性:81.00歳 女性:84.02歳	男性 102.3% 女性 98.7%
	目標値(令和6年度末)	男性79.20歳、女性85.10歳	⇒			

#### ① 数値目標達成状況 おおむね達成

達成状況の要因分析	標準化医療費において、本町は県平均に比べ筋骨格系の疾患の比率が男女とも高くなっている。こうした筋骨格系疾患の予防には、健康なうちに日常的に適度な運動を継続することが重要であり、介護費や医療費の削減や健康寿命の延伸に大いに有効であると考えられる。
目標を見直す場合の考え方	—

## ② 事業成果

自宅でも教室での内容が振り返れるよう、各教室、講師が作成した資料を配布した。  
ウォーキング教室では、個人の年齢や体力に応じて目標心拍数を設定し、実践した。参加者からは、自分に合った歩くペースが分かり、大変参考になったという声があった。  
ノルディックウォーキング教室の参加者は、ポールを使うことで普通のウォーキングよりも歩幅が大きくなることや、上半身の筋肉も使う全身運動が行えることなどを実感されていた。膝や腰の負担が少なく、バランスを崩すことなくウォーキングができると好評であった。一部の参加者は、教室終了後にポールを購入し、継続されている。

## ③ これまでの取組で得られたノウハウや昨年度までの事業評価を反映した今後の方針

ノウハウの内容、内部評価・外部評価の反映、目標達成に向けた今後の方針など

ウォーキングやストレッチ、筋トレなどの運動による効果はすぐには現れず、継続して実践することが重要である。教室の内容やポイントを振り返り、実践・継続できるよう支援が必要である。  
また、健康プログラム事業で使用するアプリやデジタルサイネージも活用し、教室開催の周知や情報発信を行いたい。

## ④ 内部評価結果(①～③を踏まえた評価)

・KPIの達成に向けて順調。アンケート結果から本事業参加者の満足度が高いことが分かり、町民の運動習慣定着につながっていると評価できる。  
・令和5年度から新たにスタートするスマートフォンアプリを活用した取り組みについて、年齢制限や定員は設けないこととしており、多くの方に利用していただくため積極的にPRしていくことが重要

## 外部評価の結果

意見等なし

## 第2次おい町未来創生戦略 事業評価シート

<b>整理番号</b>	4-⑤	<b>課名</b>	社会教育課
-------------	-----	-----------	-------

<b>戦略分類</b>	4. 活力生活		
<b>取組の方向</b>	積極的な活動展開による「若さ」いきいき生活の実現		
<b>戦略事業名</b>	⑤生涯学習推進事業		
<b>予算事業名</b>	本郷公民館活動事業、佐分利公民館活動事業、大島公民館活動事業、名田庄公民館活動事業 本郷公民館生涯学習推進事業、佐分利公民館生涯学習推進事業、大島公民館生涯学習推進事業、名田庄公民館生涯学習事業、公民館管理運営事業		
<b>令和4年度実績額</b>	4,732,942円	<b>令和5年度予算額(6月補正後)</b>	7,420,000円

<b>事業の概要(実績)</b>	<b>令和2年度</b>	<b>令和3年度</b>	<b>令和4年度</b>
	<p>この事業は、地域における生涯学習の充実や地域課題の解決が求められている公民館を主体にして、生涯にわたる学習の場の提供、および地域づくりの拠点施設として住民活動を支援する。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、4月から6月中旬までの各教室や大規模な事業等は開催出来なかったが、それ以降は公民館ごとに住民の学習の場の提供や、生涯学習推進委員と連携し地域の特性を生かした事業を展開していった。</p>	<p>令和3年度においては、新しい生活様式を踏まえ、新型コロナウイルス感染防止対策を考慮しながら、フェイスブックやInstagramなどで各世代に向けて情報発信を行うことができ、少しずつ参加者が増加した。</p> <p>各公民館ごとの生涯学習推進委員との連携により、地域の特性を活かした住民の求める学習の場の提供に心がけ、また他の地域の歴史や文化を知る4館合同事業を実施して、住民の学習の場を設けた。</p>	<p>令和4年度は、各公民館ごとの生涯学習推進委員と連携し、新型コロナウイルス感染防止対策の徹底を図りながら、地域の要望や特性に応じた事業を展開した。その結果、昨年度と同程度の参加人数があった。</p> <p>また、公民館合同事業を継続するとともに新たに「パソコン・スマホお悩み相談室」と題した公民館統一事業を行った。</p>
	<b>令和5年度(予定)</b>		<b>令和6年度</b>
	<p>新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことにより、何が変わり、何が必要なのかを公民館ごとの生涯学習推進委員と協議しながら事業を展開していく。</p> <p>また、住民が各地域を学ぶ4館合同事業を継続して実施するとともに、公民館統一事業では昨年度実施した「パソコン・スマホお悩み相談室」の実施内容を改め再度実施する。</p>		/



### 評価(Check)

<b>成果を測る指標(KPI・数値目標)</b>	<b>教室・講座参加者数</b>		⇒	<b>現 状</b>		<b>KPI達成率(%)</b>	
	基準値 (平成30年度)	年間延べ6,914人		令和4年度末	年間延べ4,978人		68.2%
	目標値 (令和6年度末)	年間延べ7,300人					

① 数値目標達成状況 現状では達成が難しい

<b>達成状況の要因分析</b>	<p>昨年度と同じく新型コロナウイルス感染防止対策の観点から、公民館教室や行事等はその都度実施可能かの検討を必要としたが、実施回数はコロナ過以前に戻りつつあり、生涯学習推進委員と計画した事業を行うことができ、参加人数は昨年度より若干ではあるが増加した。</p>
------------------	--

<b>目標を見直す場合の考え方</b>	-
---------------------	---

## ② 事業成果

令和4年度は、新型コロナウイルス感染防止対策を行いながらも、コロナ過以前並みの事業数を実施することができた。また、各公民館において生涯学習推進委員と連携し、地域に応じた事業を行うことができた。

## ③ これまでの取組で得られたノウハウや昨年度までの事業評価を反映した今後の方針

ノウハウの内容、内部評価・外部評価の反映、目標達成に向けた今後の方針など

現在、各公民館、図書館では、告知チラシに加えて、フェイスブック、インスタグラムを開設して、行事・教室等の告知や活動状況を周知しているが、SNSを更に活用し、住民が公民館を利用しやすい環境づくりを行う。  
また、新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことにより、何が変わり、何が必要なのかを公民館ごとの生涯学習推進委員と協議しながら事業を展開していく。

## ④ 内部評価結果(①～③を踏まえた評価)

- ・目標の達成には至っていないものの、新型コロナウイルス感染症の影響が少なくなり、参加者数は増えている。
- ・新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことに伴い、各公民館の生涯学習推進委員とも連携して感染症対策の見直しを行った上で、多くの方に参加していただける活動を行っていくことが重要

## 外部評価の結果

意見等なし

## 第2次おい町未来創生戦略 事業評価シート

整理番号	4-⑥	課 名	まちづくり課
------	-----	-----	--------

戦略分類	4. 活力生活		
取組の方向	情報通信基盤の整備充実		
戦略事業名	⑥Wi-Fi環境整備事業		
予算事業名	Wi-Fi環境整備事業		
令和4年度実績額	0円	令和5年度予算額(6月補正後)	0円

事業の概要 (実績)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	公共施設におけるWiFi環境整備 ・若州一滴文庫 ・フィットネスセンターアクアマリン ・暦会館 ・若狭本郷駅	公共施設におけるWiFi環境整備 ・総合運動公園(野球場) ・総合運動公園(球技場) ・赤礁崎オートキャンプ場 ・頭巾山青少年旅行村 ・八ヶ峰家族旅行村	令和3年度をもって事業完了
	令和5年度(予定)	令和6年度	
	(画像等貼付)		

### 評 価 (Check)

成果を測る指標 (KPI・数値目標)	整備箇所数		⇒	現 状		KPI達成率 (%)
	基準値 (平成30年度)	累計14箇所		令和4年度末	累計25箇所	100%
	目標値 (令和6年度末)	累計25箇所				

#### ① 数値目標達成状況 達成

達成状況の要因分析	WiFi環境整備計画に基づき、WiFi環境整備を進めていったため。
目標を見直す場合の考え方	—

② 事業成果

公共施設にWi-Fi設備(無線アクセスポイント等)を設置しインターネット利用環境を整備することで、災害発生時に携帯電話事業者インフラが被害を受け、スマートフォン等のモバイル端末でインターネットが利用しづらい状況となった時でも、住民や滞在者等が情報収集できる環境を確保した。  
また、平常時においても住民等に利用機会を浸透させることで当該Wi-Fiを広く認知し、情報収集手段としての利用率を向上させた。

③ これまでの取組で得られたノウハウや昨年度までの事業評価を反映した今後の方針

ノウハウの内容、内部評価・外部評価の反映、目標達成に向けた今後の方針など

令和3年度をもって事業完了

④ 内部評価結果(①～③を踏まえた評価)

- ・事業計画に基づき着実に整備を進めた結果、KPIを達成した。
- ・災害発生時等においても住民等が情報収集できる環境が確保されたことで、防災体制が強化されたと考える。

外部評価の結果

意見等なし

## 第2次おい町未来創生戦略 事業評価シート

整理番号	4-⑦	課 名	まちづくり課
------	-----	-----	--------

戦略分類	4. 活力生活		
取組の方向	移住・定住の促進に向けたおい町の住まい支援		
戦略事業名	⑦移住就職等支援事業		
予算事業名	移住・定住・交流推進事業(移住支援金)		
令和4年度実績額	2,000,000円	令和5年度予算額(6月補正後)	2,600,000円

事業の概要(実績)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	令和5年度(予定)	令和6年度		
	おおい町への若い世代の移住定住を目的とし、支援金を交付する。 【交付金額】 ≪全国型≫ (1)単身世帯 1ターンのみ…15万円 Uターンのみ…30万円 (2)若年夫婦世帯 (3)子育て世帯 1ターンのみ…30万円 Uターンのみ…50万円 ≪東京型≫ (1)単身世帯…60万円 (2)2人以上の世帯…100万円 + 子どもひとりにつき100万円		おおい町への若い世代の移住定住を目的とし、支援金を交付した。 【交付金額/実績】 ≪全国型≫ (1)単身世帯 1ターンのみ…15万円/5件 (2)若年夫婦世帯 (3)子育て世帯 1ターンのみ…25万円/3件 Uターンのみ…50万円/1件	
	おおい町への若い世代の移住定住を目的とし、支援金を交付する。 【交付金額】 ≪全国型≫ (1)単身世帯 1ターンのみ…15万円 Uターンのみ…30万円 (2)若年夫婦世帯 (3)子育て世帯 1ターンのみ…30万円 Uターンのみ…50万円 ≪東京型≫ (1)単身世帯…60万円 (2)2人以上の世帯…100万円 + 子どもひとりにつき100万円		(画像等貼)	

### 評 価 (Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	支援による転入件数	⇒	現 状		KPI達成率(%)	
	基準値 (平成30年度)		累計0件	令和4年度末	累計13件	162.5%
	目標値 (令和6年度末)		累計8件			

#### ① 数値目標達成状況 達成

達成状況の要因分析	令和3年度に施行した当制度において、チラシの配布や町公式HP(移住定住情報サイト)での掲載、移住促進イベントへの参加、転入者への案内等により、周知を図ってきたことから、KPIを達成することができた。
目標を見直す場合の考え方	-

② 事業成果

9世帯(20名)の若年移住者に対して支援金を交付し、移住者の新規獲得及び定住促進に寄与することができた。

③ これまでの取組で得られたノウハウや昨年度までの事業評価を反映した今後の方針

ノウハウの内容、内部評価・外部評価の反映、目標達成に向けた今後の方針など

現時点でKPIを達成している状況ではあるが、当支援制度だけでなく、今年度制作を予定している移住PR動画や移住相談イベント、その他の支援制度等を効果的に活用しながら、移住者の増加に向けたPRを行っていききたい。

④ 内部評価結果(①～③を踏まえた評価)

- ・令和4年度は9世帯が本制度を利用しておおい町に移住しており、KPIを達成。継続的に制度の周知を図ってきた効果が出ている。
- ・今後も積極的に制度を周知して移住者を獲得するとともに、既に移住された方について、町の暮らしに満足して定住していただけるように、他の行政サービスとも連携しながらサポートしていくことが重要

外部評価の結果

意見等なし